

さわやかトカラ情報

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

一隅を照らす十島の教育

七月 団扇(うちわ)の風

十島村教育長 原口 英典

今から10年くらい前だろうか。ある会で「涙そうそう」という歌を、若い先生が歌うのを聴いた。

古いアルバムめぐり / ありがとうってつぶやいた /
いつもいつも胸の中 / 励ましてくれる人よ / . . .

以来、この歌は私の心の歌として、とりわけ心が委ねるとき、ふっと口をついて出てくる。

私たち十島の学校にあって、今、夏休みを心おきなく過ごせているとしたら、いったいどれだけの人のおかげのもと、今を迎えていることだろう。自分を「励ましてくれる人」の存在に気付いて、その誰かに向かって、何回「ありがとう」ってつぶやいていることだろう。

振り返るに、この一学期は、“人間の尊厳”ということについて考えさせられる機会でもあった。

ある人の文章に

ひとは、「ありがとう」の数だけ賢くなり、
「ごめんなさい」の数だけ優しくなる。

というのがあった。

子どもにしろ、大人にしろ、改めて、人が人として、自他ともに尊敬し合う『生き方の根っこづくり』が求められている今、私たちが立ち返るべき所は、どこだろう。それは、上記のような言葉に、そしてしづさに、意味と意義をよみがえらせることなのではあるまいか。そして「掃除」(汗かき、心を整え、心を磨く^{いとま}営み)にも。

併せて、「食」なくしては生きていけない私たちが、これまで大事にしてきた言葉としての「いただきます」や「ごちそうさま」にも、単なる食事時の号令としての意味合いではなく、本来の意味に思いを寄せる生き方に立ち返れば、必ず“人間の尊厳”の持ち合わせるべき実像が、^{おの}ずと形成されていくのではないか。身近にある平凡な言葉の中に、そして、しづさのかなた(彼方)に、真理としての価値は^{ひそ}潜んではいしないか。

ちなみに、「ごちそうさま」(御馳走様)とは、「馳」も「走」も食材を走り回って集めるさまをいうが、来ていただいた客をもてなすために命がけで必死に走り回って食べ物の準備をしてくれたことに対して、それへの感

謝の言葉として生まれたといわれる。

粗末なる団扇の風を愛しけり(虚子)

【潤いと感動の学校：諏訪之瀬島分校】

7月3日(火)、鹿児島教育事務所(緒方玲子所長ほか3人)と合同の諏訪之瀬島分校の計画学校訪問が本校の田中学校長も出席して実施された。通常は、原教頭を中心に、小学校3人の教諭と養護教諭、中学校2人の教諭に調理員の方々が、9人の児童生徒とともに教育活動を行っている。礼儀正しい子どもたちに先生方。ごく当たり前に立ち止まってあいさつしてくれる。立ち止まるとのあいさつができる学校はそうそう多くはない。まずもって心揺さぶられることだった。

教頭先生は毎日、文書で本校の校長に今日一日の学校の様子を報告し、校長先生は平島に居ながらにして分校の一日を十分理解しているという。分校の教頭職の重たさとその責任を果たす姿にもまた感銘。かつ、本校と分校の両校の校長職の気苦労にも思いをはせることであ



た。白石先生、出水先生、楠元先生、西村先生、山中先生、満木先生、どの顔も輝いていた。子どもら一人一人に応じ、彼ら一人一人を活かす授業やかかわりを誠実に求め

ている姿が美しかった。一隅を照らす教育にかかわる先生方、島民の方々に心より感謝。教育事務所の的を射た御指導にも深謝。

【村教育委員会教育委員・事務局の異動】

<教育委員>

(前任者) 日高久志委員 (22.10.13~24.4.1)	(後任者) 用澤満男委員 (24.6.18~26.10.12)
-----------------------------------	------------------------------------

<事務局>

竹内照二教育総務課長	村地域振興課長へ
日高広登教育総務課長	教育総務課室長より
平田直巳主事	村住民課より
宮永征尚事務嘱託員	新規採用

【人権同和問題啓発強調月間】

期間：8月1日(水)～8月31日(金)

偏見や差別のない明るい社会の実現に努めましょう。～いっしょに考えよう、大切な人権のこと～

絆 シリーズ 山海留学生として学ぶ

肥後 葵衣 現在堺市高校1年生

【子どもたちの作品】

(南日本新聞「若い目」
<H24.6.25>より)

交流学习でいい経験

悪石島中学校 3年 坂元 里帆

【子供のうた】

(南日本新聞「子供のうた」
<H24.7.5>より)

宝島小学校 4年 平田 進之助

つゆ

つゆがきた

毎日雨かな

外で遊びたいな

友達といっしょに

みんな何をしているかなあ

早く夏にならないかなあ

十島村の小・中学校からのメッセージ

宝島小・中学校小宝島分校

教頭 東 浩二

28.8歳。これは、今年度の小宝島分校教職員の平均年齢です。若い先生方は経験が少ないですが、一生懸命子どもたちと関わり、共に成長しています。私はその姿をみて喜びを感じています。

前任校は県最北の中学校で、フェリーで20分の離島でした。異動発表の時は、教諭から教頭へ職種が変わり、またフェリーで20分の離島から12時間30分の離島への異動で動揺しました。しかし、同僚に支えられ、島民の皆様への温かい御理解・御協力のおかげで、未熟な私でもなんとかやらせていただいています。

小宝島では、妻と娘二人(現小2・4)の家族同伴での生活をしています。赴任する前は、店も自動販売機もない生活に不安もありましたが、生協やネットショッピング、知人からの贈りもの等に支えられ、食材は多めにストックしておけば問題はありません。物質的に満たされた「かゆいところに手が届く」環境からすれば不便と思うかも知れませんが、「我慢」することや「計画性」が身に付きます。昨年度は、台風時期には2週間ほどフェリーが来なかったこともあり、公文や郵便物の準備等は、欠航や抜港も想定して早めに行っています。

小宝島は周囲約4kmで、十島村で一番小さな島です。ここ数年は人口が増えています。

児童生徒(小9人、中4人計13人：内教員の子ども5人、山海留学生5人)は、放課後や休日には分校の校庭に集り、職員も一緒になって遊びます。来年3月予定の体育館完成が待ち遠しく、子どもたちや島民の皆様とスポーツ交流等をするのが楽しみです。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ

私は、子どもたちに対して「頑張って」、「頑張ろう」という声かけをしてしまいがちでしたが、「前を向いて『顔晴ろう!!』頑張るとは笑顔でやることだ。」というように考えるようになりました。笑顔が増えると仕事がかどります。青い海に囲まれた自然豊かな十島村の学校で、子どもたちや心温かい島民一人一人との「たしかな出会い」を求めて、多くの方が十島村を希望して赴任されることを願っています。

【村内各小中学校一学期無事終了】

小学生46人、中学生16人、計62人